港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会
TEL 045-547-2324　FAX045-531-9561　　第 66 号
HP　http://kouhoku-saibora.jimdo.com　FB 港北区災害ボランティア連絡会　　2018 年 6 月
＊入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

今年の方針はこれだ
～もっともっと役にたつ災ボラへ～

総会のご報告

５月１６日に行われた総会で承認されました
２０１８年度の活動方針と活動の柱
住民の皆さんも巻き込んで、多くのことを学びましょう

活動の方針

１．死なない、傷つかない防災をめざそう
２．多くのつながりを作り出そう
３．お茶の間の防災をめざそう
【活動の柱】多様なつながりを作り、活かす災害ボランティア連絡会
１．会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役に立つ災ボラ
２．地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ
３．あせをかき、被災地とつながる中から学ぶ活動

昨年の活動の大きな成果は常総市とのつながりを区内全域に広げられたことでしょう。４地区の社協が地域の人たちを常総市へと運び、防災研修をしてきました。私たちの活動がそのきっかけを作れたことは喜ばしいことです。今年もそのようなつながりを大切にした活動を展開することにしました。アンケート結果からは防災フェアや防災 BBQ などが出されています。折角買った発電機や携帯の充電器を使いながら学ぶ機会を作るのも楽しいと思います。

芦屋市民家の台所の惨状

これが何時横浜の現実になるとも知れません

定例会も学びの場とすることが必要です。話を聞き、意見を出すだけでなく、お互いの知恵を披露し、交換する場として行きます。気になった新聞記事等を持ち寄って話題にしたり、テレビで気になる番組があれば録画しみんなで鑑賞するなどをしてみましょう。

「居る」から「参加する」へ、参加する」から「関わる」へ、とみんなで作り、自分と地域の役に立つ連絡会を作りあいましょう。

新会長になって

宇田川規夫

総会にしか出ない幽霊会員だった私が毎回定例会に出るようになったのは7年前からです。東日本大震災でボランティアバスを出し、その参加者に対しぜひ自分たちの経験を地元に還元してほしいとお願いしたからでした。言った当人が地元に復帰しないわけにはいきません。

「日常生活にもっと高い安全を」と救急法の普及に取り組んで50年近く経ち、防災の現場に関わるようになって25年が過ぎました。それなりの知識と経験は積んできたつもりです。しかし地域防災はその知識を伝えれば達成とはいきません。防災とは「命」と「暮らし」と「夢」を守るためにはどうしたら良いかを考えあうことだと思っています。

災害ボランティア連絡会には2つの使命があります。1つは災害ボランティアセンターの運営です。もう一つは日常から地域に防災や災害支援の大切さを伝えていくことです。前者に必要なのは経験と交流です。そのため現場の雰囲気を知るため被災地に行く事はとても大切です。それができなくても被災地を訪問し、応援し、交流することで訓練では見えないものがつかめるはずです。一方地元で防災を伝えるのはそんなに難しいものではないと思うのです。会員の皆さんの日頃の話題の中に時々防災対策を取り上げ「オタクはどうしているの?」と聞いてみることが1番効果的だと思っています。楽しいお茶の間防災を会員のみなさんが困った時に、展開するための知恵と方法を共に探りたいと思います。

皆さんのご協力をよろしくお願いします。

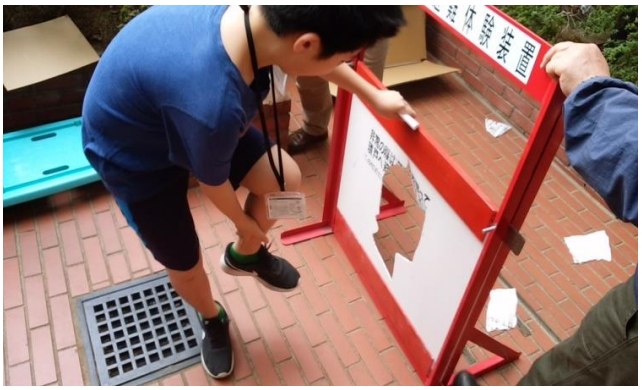
マンション防災 こんなことしました

「マンション防災は難しい」とよく言われます。そんな中、実践的な訓練に取り組んでいる大倉山の防災訓練の報告です。

大豆戸町にある大倉山フラット（47 世帯）の管理組合は、4月14日に防災備蓄品説明会と防災訓練を実施しました。21 戸、26 人の住民が参加しました。大豆戸町内会の防災部長に参加をお願い、あいさつをいただきました。

管理組合は、昨年7月に防災備蓄品を購入したのを契機に、理事会の下に防災委員会を設置、活動を始めました。購入したのは簡易トイレ、担架、発電機、カセットコンロなどです。大地震が発生したら支援が来るまでの数日間は自力で生活することが求められます。一緒に暮らすマンションの住民が力を合わせて乗り切るためのグッズです。

当日は、携帯電話の充電にも使える発電機を動かしたり、簡易トイレ設置やテント作りもやってみました。テント張りは結構むずかしく数人がかりでようやく作れました。「実際にやってみたことで、いざという時にあわてずに済む」と思いました。防災訓練では、東日本大震災の津波の最高の高さを実感するために6階まで非常階段を昇ったほか、ベランダの隣戸との隔壁のボードを実際に破ってみる体験もしました。また、非常用食品の試食も行いました。「結構いけるね」という感想が聞かれました。



実際に破ってみた隔壁のボード

理事会や防災委員会では、「災害時に孤立している被災者がいても誰も気がつかないということだけは避けよう」と話しています。そのためには日常的なコミュニケーションが必要と感じています。次回の防災訓練は8月25日に消防署にも来てもらい実施します。

（大倉山フラット理事　蜂谷隆）

よろしくお願いします

本年度から区のボランティア班の体制が変わり、子ども家庭支援課が課全体で対応してくれる事になりました。今後訓練等で色々とご一緒する事になると思います。

本年度より、港北区災害対策本部ボランティア班を担当させていただく港北区福祉保健センターこども家庭支援課こども家庭係長の濱畠亮平(はまはたけ　あきひら)と申します。まだまだ、勉強不足ではございますが、みなさまと顔の見える関係を構築し、みなさまとともに地域の防災・減災に貢献していきたい

と考えております。特に港北区災害ボランティアセンター（平時は、港北区災害ボランティア連絡会）のみなさまと連携し、各地から集結したボランティアの方々が円滑に従事できる環境づくりを目指していきたいと考えております。勉強不足な部分もあると思いますが、よろしくお願いいたします。

港北区役所こども家庭支援課　濱畠亮平

一方総務課の災ボラ担当は今年から新人の鵜飼さんが担当してくれる事になりました。今年は区との意見交換を積極的に行う方針です。鵜飼さん、よろしくお願いします。

港北区役所総務課庶務係防災担当の鵜飼隼也（うかいじゅんや）と申します。よろしくお願いいたします。災害ボランティア連絡会のみなさまとお仕事ができることを大変うれしく思います。大規模な災害が起こった際に、中心となる災害ボランティアセンターを有効に機能させるためには、なによりも港北区災害ボランティア連絡会の方々の力が必要不可欠だと考えております。

港北区災害ボランティア連絡会の方々には、引き続き、発災時の活動を想定した取り組みをお願いするとともに、区役所としても発災時に災害ボランティアセンターが有効に機能するように協力していければと思います。私自身港北区が、災害に強いまちになるために、全身全霊で取り組む所存です。ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

港北区役所総務課　鵜飼隼也

異動の挨拶

前港北区社会福祉協議会事務局長
池田　誠司

今年の 3 月まで、港北区社会福祉協議会の事務局長として、4 年間勤務をさせていただきました池田です。

この間、念願だった「災害ボランティアセンター立ち上げに関する協定」（災害ボランティア連絡会、区役所、区社協の三者）の締結をはじめとして、災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練、被災地の視察など、たくさんの勉強や経験をさせていただきました。特に常総市との関係では、港北区内の多くの地区で被災地の視察や研修を行い、被災地の実体験を地区の防災の取組に役立てるなど、大きな進展がありました。

平成 10 年にスタートした災害ボランティア連絡会ですが、これまで多くの試行錯誤を繰り返して現在に至っています。これからも、日ごろから知恵や力を出し合って、実際に災害が起きたときに対応できるよう、協定三者の絆が一層強まり、協定の実効性が高まることを祈念しまして、私の異動の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

シリーズ我が家の防災対策

今回は感震ブレーカーを取り上げています。地震火災を防ぐことは住宅密集地の多い港北区ではとても大切な取り組み。でも一軒だけ取り入れても効果は薄いです。ぜひ地区全体の取り組みに広げましょう。

リレー連載　我が家の防災　⑭
杉浦さんちの防災

我が家の寝室はベッドと、ベッドより低いサイドテーブルがあるだけで、他に家具はありません。サイドテーブルには懐中電灯と笛が入れてあります。玄関横の靴箱の下２段を陣取った避難所に持ち出すためのリックがあり、あとは当日入れるリスト（花粉症薬を含めた薬類、メガネ等）を入れるのみとなっています。自宅には非常食として、水の他に、すぐに食べられる缶入りパン、ビスコ、お湯を入れて食べられる五目御飯やいそべ餅等があり、卓上ガスコンロとボンベがあります。当然非常用トイレもあります。昨年春より関西に転勤になり、横浜不在時の地震発生に対して「感震ブレーカー」を設置しました。

備えは十分と自負していましたが、本原稿を書くにあたり、はたと京都の家を見回すと、1 年半の期限付き転勤のため取りあえず身の回りのものだけ持ってきただけで、京都の家には非常食も、非常用トイレも、持出用リックの準備も何もないことに気が付きました。。短期の転勤とはいえ、今から準備をしようと心に決めました。

（杉浦明子）

団体紹介

公益社団法人
SL災害ボランティアネットワーク

SL 災害ボランティアネットワークは、災害救援ボランティア推進委員会が主催する災害救援ボランティア養成講座を修了し、セーフティリーダー(SL)の認定を受けたメンバーによる団体です。任意団体「SL ネットワーク」を前身とし、2013 年に一般社団法人として発足、翌年に公益認定を受けました。講座を主催する災害救援ボランティア推進委員会は、1995 年にライフライン・報道・教育関係者、行政経験者等の有志が中心となり結成された民間団体です。災害救援ボランティア講座は、総務省消防庁が示した基準に基づく認定資格セーフティリーダーを養成する、災害、防災、減災に関する座学、実技、演習などからなる 2 日または 3 日間の講座で、これまでに受講して認定を受けたSLは全国で1万人を超えています。神奈川県では年に 1, 2 回開催されており、開催案内は災害救援ボランティア推進委員会 HP の他、「県のたより」にも掲載されています。

SL 災害ボランティアネットワークの主な活動は、地域での防災・減災活動、被災地の支援活動、防災教育・防災研修の実施、会員訓練・研修などです。横浜では「SL 横浜ネット」という SL のグループが活動しており、例えば毎年「かながわ・よこはま防災ギャザリング」に協力しています。

（上級セーフティリーダー・
SL横浜ネットメンバー 室伏俊明）

次回 定例会
７月１８日(水) 18:30～
夜間開催です。
各タスクチームの活動
よろしくお願いします。

災害本 「東京くらし防災」

東京都 無料 都内各所で配布中

以前会員の教材として配布した「東京防災」の女性版です。女性目線から女性特有の問題にも触れて防災対策を考えるという作りになっています。「東京防災」はいろいろ問題があると指摘されたのを意識してか、とても具体的に細かく書かれています。ただ子どもの問題を細かく書いているのは良いとしても、子どもの事を考えるのは母親の役目といった固定的な役割論で考えるのはどうかとも思います。その結果が避難所等で子どもや老人、障害者等の抱える問題に気づきにくい男性のあり方をそのままにしてしまう懸念があります。だからこそ家族で参考にしながら、これで良いの？と指摘しながらの防災対策を考える参考書にして欲しいですね。

山口さんや坂上さんがわざわざ東京から運んで来てくれたので希望者にお配りできます。必要な方はお申し出ください。

☆本の中のコメントから

・私の「いつもが」いのちを救う
・いつもの片づけ習慣が安全をつくる

編集後記

☆仕事の上でミスが発生、後始末におわれる日々が続きました。おかげで他のことがなにもできず、ニュース発行も遅れてしまいました。本業とボランティア活動との兼ね合いの難しさを痛感した今月でした。 （宇田川）
☆「我が家の防災」が回ってくるのを恐れています。家中に倒れそうな書棚がいっぱいです。 （中島–）
☆ニュース遅延です。大阪の地震の影響ではありません。 （付岡）
☆近日号掲載の「室伏さんちの防災」で感震ブレーカーを扱う予定です。 （室伏）